

ウエイ ラ ミン ティエン

为 了 明 天

—— 明日のために ——

子どもたちに希望を 人々に友情を

特定非営利活動法人 宋慶齡基金会 日中共同プロジェクト委員会

<http://www.sokeirei.org>

中国の宋慶齡基金会から東日本大震災被災地に熱い激励と支援

—— NPO法人宋慶齡基金会 日中共同プロジェクト委員会 第10回総会を終えて ——

代表理事 **川崎 高志**

本年は、日中国交正常化40周年に当たり、当会は、NPO法人認可10周年を迎えます。2月26日に開催された第10回総会では、会員・支援者の皆様方の多大なご協力に支えられて緊急に取り組んだ大震災被災地の子どもたちへの支援及び半ば長期的には、南三陸町での保育施設再建プロジェクトが議論の中心になりました。

同時に、従来中国の農山村地域の教育・母子保健事業への支援の提携団体であった中国宋慶齡基金会(北京/全国的)・上海宋慶齡基金会が被災青少年に対する応援プログラムを決めて下さった事が大きな話題となり、私たちに対する激励となりました。

中国宋慶齡基金会は、まず、唐聞生副主席ら青少年を含む代表団を被災地に派遣して慰問し、次いで被災地の中高生100名と随行の教師・医師等を8日間中国に招待し、同世代との交流で心を温め、得難い経験をさせて下さいました。また、上海宋慶齡基金会は、昨年5月末の理事会で、被災地の子どもたちへの支援として、

200万元(約2500万円)の寄付を決めて下さいました。当会は、そのご厚意を受けて、南三陸町保育施設再建支援基金を立ち上げることにいたしました。この総会で三者協議書案も決定し、すでに三者署名も終わり、具体化に進んでいます。この保育施設再建基金には、すでに国内企業からの寄付も受け付け、皆様からのご支援もお待ちしています。引き続きご支援を頂戴いたしたく、よろしくお願い申し上げます。

また本年の中国の子どもたちへの支援については、京友会による寧夏回族自治区の小学生への新華辞典の寄贈を引き続き実施するとともに、昨年中断した河北省易県への教育設備支援を実施します。

最後になりましたが、私は、本総会で選出された理事の互選により、このたび、当会の代表理事に就任いたしました。宋慶齡女史の願いであった、「子どもたちに希望を、人々に友情を」はぐくむお手伝いができるようこれからも尽力していきます。皆様のご支持をよろしくお願い致します。



2011年度 収支計算書

2011年1月1日から12月31日まで

科 目	金 額		
	内 訳	期中小計	期中合計
収入の部			
I 寄付金収入合計			2,866,000
正・維持会費		760,000	
プロジェクト寄付		2,106,000	
幼児教育支援事業	0		
母子保健事業	21,000		
教育支援事業	177,000		
図書セット寄贈事業	36,000		
東日本震災支援事業	1,417,000		
カンパ	455,000		
II その他の収入合計			39,123
中国への理解を深める為の活動		38,500	
中国講座開催	38,500		
預金利息		623	
当期収入合計			2,905,123
収支差額前期繰越金			3,979,847
当期収入総合計			6,884,970
支出の部			
I 事業支出		1,464,297	
教育支援事業	100,000		
図書セット寄贈	0		
東日本保育支援事業	1,364,297		
II その他の支出		108,425	
中国講座開催諸費用	108,425		
III 運営費		960,297	
振替口座加入者負担	22,900		
事務室管理料	264,120		
水道光熱費	67,068		
旅費交通費	0		
通信費	159,896		
広報活動費	147,480		
会議費	6,700		
国際交流費	32,075		
消耗品費	100,748		
海外送金料	0		
コピー機リース料	148,680		
原価償却費	0		
雑費	10,630		
当期支出合計			2,533,019
収支差額次期繰越金			4,351,951
当期支出総合計			6,884,970

NPO法人
宋慶齡基金会日中共同プロジェクト委員会
第6期(2012・2013年度)役員(敬称略)

[顧問] 小坂 哲 瑯 久保田 文次
[監事] 木村 良 夫 堀 越 信子
[理事] 阿久津 隆文 井岡 今日子
○井岡 健 磯 貝 光 子
○井上 睦子 ◎川崎 高志
久保田 博子 新保 敦子
渋谷 文雄 沈 潔
○諏訪 きぬ 中江 勁
西野 可奈 包 衛 青
三浦 克子

(◎代表理事 ○副代表理事)



JCC寄贈の遊具で楽しく遊ぶ
南三陸町志津川保育園の子どもたち

支援の輪！ 上海から南三陸へ

上海宋慶齡基金会 理事会参加報告

副代表理事・事務局長 井岡 健

本年4月28日、私は、上海宋慶齡基金会 2011年度理事会に参加した。

上海宋慶齡基金会は、昨年(2010)の東日本大震災直後いち早く「被災お見舞い」のFAXを日本の宋慶齡



上海基金会理事会で挨拶(筆者)



南三陸プロジェクトの紹介

基金会（略称：JCC）に寄せ、「必要な協力は惜しまない」との熱い激励を届けて下さった。ついで上海宋慶齡基金会理事会は、昨年5月末の理事会で、宋慶齡日本基金会時代以来20数年に及ぶ日本の支援者の皆様方の中国の母子保健・教育支援事業に対する支援のプロセスをスクリーン上で紹介した後、謝麗娟副主席が東日本大震災被災者支援として200万元（約2500万円）の拠出を提案し、決定していた。

JCCは、その後その支援金を基金に「南三陸保育施設再建支援プロジェクト」を立ち上げ、上海宋慶齡基金会・宋慶齡基金会JCC・南三陸町の3者協議書を作成、3者調印に進んだので、上海宋慶齡基金会への経過報告と感謝を表示するため、私が4月28日の上海宋慶齡基金会理事会に出席することになったのである。

同理事会では、ご厚意により、私は、大勢の国内外の理事の前で発言する機会を頂いた。JCCを代表して、まず南三陸町の復興状況、復興のための課題等について述べ、保育施設再建プロジェクトの概要を説明し、本プロジェクトへの寄付に対して南三陸町とJCCを代表して謝辞を述べ、最後に、魯平主席にJCCオリジナルの美しいガラス製の感謝の記念盾を贈呈した。プロジェクトの3者協議書については、理事会直前に署名儀式を終えていた。

被災地の再建は、これから本番となる。私たちの活動が少しでも被災地の子どもたちの助けになれば、うれしい。それらがまた、日中友好の絆を深めると信じている。



上海宋慶齡基金会理事との記念写真

南三陸の町に 日中友好の花を咲かせたい

副代表理事 諏訪きぬ

歴史5千年の国、中国から東日本災害の支援として厚い手が差し伸べられました。孫文夫人として中国の革命を支え、中国発展の基礎がために尽力した宋慶齡女史の遺業を継承するために組織された宋慶齡基金会は、中国の子ども・女性のしあわせのために、多角的な活動をしています。その一つ、上海宋慶齡基金会から託された多額の支援金を、私共JCCの日中友好の証として、また南三陸町と中国との友好の礎石として、南三陸町の保育施設復興に役立てたいと願っています。

保育施設の全てを流失した戸倉保育所は、すでに建設予定地も用意されたと伺いました。瓦礫の町と化した南三陸の町に、一日も早く復興のシンボルとして“親と子の生活と発達”を守る保育所が再建されることが待たれます。流出した施設の再建には、国の予算措置がなされるようですが、そこになにか“くつろぎや安らぎの拠り所”となるような施設をプレゼン

トできたら…などとひとり夢を描いたりしています。

上海の保育園・幼稚園のお子さんから、「災害地のお友だちを励まそう!」と何枚かの絵画が送付されてきています。その絵を南三陸の保育所のお子さんたちに届けながら、コンビニのおむすび給食になれて「梅干が食べられるようになったよ!」と屈託なくおしゃべりしてくれた南三陸町の園児さんたちの1年後の姿に接したいと切望しています。その際には、担当課の方々ともお会いして、保育施設復興計画の進行状況や構想を伺いたいと思っています。

ところでJR東日本の「えきねっと」に南三陸町復興市応援ツアーが組まれているのをご存知でしょうか? 5月は26日(土) 出発と27日(日) 出発と2コースですが、6月以降も毎月設定されるようです。仙台に1泊して、南三陸の復興市を見学し、語り部ガイドつきで被災地を巡るという内容になっています。被災地へのこのような支援もあるのですね。

相隣・相愛

中国宋慶齡基金会、 東日本大震災被災青少年を中国に招待



日中の子供達の交流

「相隣・相愛」、中国語では「お互いに隣人である、お互いに愛する」という意味の言葉である。東日本大震災被災地の子供達と中国との友好交流のテーマとしてはこれ以上のものが無いように思う。

2012年2月中旬、東京にまだ寒風が吹く中、当会の姉妹団体である中国宋慶齡基金会副主席の唐聞生女史一行が、東日本大震災被災地の子供達の慰問のために来日した。慰問団が被災地の学校を巡り激励する多忙な日程のなか、当会は一行と交流する機会を得た。



唐聞生副主席、武田清子元理事長を表敬訪問



JCCとの会食

そして、3月28日、中国宋慶齡基金会の厚意に答えて、日中両国の関係者が協力、努力を重ねて、東日本大震災被災青少年訪中団がついに北京空港に降り立つことができた。（公社）日中友好協会名誉顧問村山富市元首相を団長として、岩手、宮城、福島、茨城4県の97名の中学生及び随行教師・医師ら総勢115人が8日間の日程で中国を訪問したのである。

代表団一行は、まず宋慶齡故居を見学し、そこで青海省玉樹地震被災地のチベット族の子供たちや北京で数少ない日本語教育を行っている月壇中学の学生たちと交流した。また、

日中青少年を主とする参加者たちは、清朝ゆかりの広大な、美しい屋敷の中庭に、日中両国の友好と希望を託して、桜の木と宋慶齡さんが生前に最も好んだ姫林檎の木を記念植樹した。

その後、代表団一行は北京の故宮博物館や万里の長城、上海の東方明珠テレビタワーなどを見学し、中国雑技の公演を鑑賞し、おいしい中華料理に舌鼓を打ち、中国の悠久の歴史と時代の息吹を身近に感じ取ることができた。



桜の木と姫林檎の木を記念植樹

今年は日中国交正常化40周年にあたる節目の年である。中国宋慶齡基金会によれば、今回、東日本大震災被災地の子供たちを中国に招待したのは、一つには、この苦難を経験した日本の子供たちにぜひ立ち直ってほしい。そして、故郷を復興させていくなかで、一息つく機会をもってほしいという気持ちだった。二つには、この訪問を通じて、日中両国の青少年が交流を深め、少しでもお互いの国、お互いのことを知ってほしいという願いからだった。草の根レベルで日中両国の友情と平和の種をまき、しっかりと育て行きたい。（報告：井岡 健）

日中両国の相互理解を深めるためのJCC中国講座もこのたびで20回目を数えることになりました。張玉萍さんのめりはりのきいた、充実した講演をレポートします。

中国人の日本観 — 戴季陶の日本観を中心に —

東京大学非常勤講師 張玉萍さん

今から百年前の1912年1月1日に、アジア初の共和国、中華民国が成立し、初代臨時大総統となったのは孫文であった。その就任を前に海外から上海に戻った孫文は、革命党员や群衆に熱烈な歓迎を受けた。その中に一人、わずか20歳の有名なジャーナリストがいた。それが戴季陶(1891~1949年)である。孫文と初めて言葉を交わした戴は、その革命思想をより一層強く信奉するようになった。1913年10月から孫文の機密秘書兼日本語通訳として側近の一人となり、生涯、孫文から離れることはなかった。戴は孫文の臨終に立ち会い、彼の遺囑にも署名した。

日本では孫文や蒋介石はよく知られているが、戴季陶は日本人に馴染みが薄い。戴は孫文の革命運動の追随者であったのみでなく、中国国民党の政権が孫文から蒋介石へと継承されるに当たって重要な役割を果たした、キーパーソンの一人である。戴は日本へ亡命した時に、蒋介石と義兄弟の盟を結び、政治理念もほぼ一致していたこともあり、蔣に孫文への接近を助言した。孫文の死後、不二の盟友として生涯、蒋介石を補佐したのである。

戴季陶は中国四川省の出身で、七人兄弟の末っ子である。1905年から09年に日本へ留学し、日本大学で法学を専攻した。帰国後、上海の輿論界に身を投じ、清王朝の腐敗無能を見て不倶戴天の仇と定め(戴天仇というペンネームの由来)、強烈な批判を行い、辛亥革命の戦闘にも参加した。彼は情熱的でロマンチックな人であり、中国の伝統的な「士大夫」の心理を強く持っていた。雄弁で政治外交家として群を抜き、先見の明を持った人であったので、現実と理想との乖離に苦悩していた。神経衰弱や神経痛に苦しみ、ついに1949年2月に国民党の大陸での敗北とともに、安眠薬の大量服用により死亡した。

戴季陶の理想は、統一され独立した近代国家を建設し、中国の富強を実現することであった。その



ためには三民主義を信奉し、階級闘争ではなく国民革命によるその実現を主張した。近代国家の建設にあたり、日本は終始彼にとって重要な認識対象であった。

少年時代の戴季陶にとって日本は憧れの対象であった。やがて「第二の故郷」から「第一の強敵」へと転じ、さらに提携と批判の対象となり、次第に日本に幻滅したが、最後には敵でないと認識したように、その日本観は二転三転した。その矛盾は彼の心を切り裂き、苦悩とジレンマを加速させた。戴は日本研究の重要性を最初に唱えた一人であり、彼の対日態度の最大の特徴は、終始日本を知ろうとし、日本を理解しようとしたことである。彼が望んだ日中両国の関係は、互いに対等な近代国家になることであった。

近代化を模索し続けてきた中国は現在、紆余曲折を経て国家の富強を実現しつつある。中国が奮闘して自ら富強を達成すれば、日本は中国の友となると戴が言ったように、日中関係の未来は希望に満ちており、戴季陶の日本観から学ぶことは少なくない。

2012年

- 1月21日 第87回事務局会議、新年度仕事初め
- 2月 5日 第88回事務局会議、第10回総会準備
- 2月11日 中国宋慶齡基金会副主席 唐聞生女史を
団長とする東日本大地震被災地慰問団
一行が来訪。日比谷松本楼、武田清子氏、
宮崎家を表敬訪問した後、新宿にてJCC
歓迎慰労夕食会に参加
- 2月26日 第31、32回理事会、第10回総会開催。
第6期理事会発足
- 3月17日 第89回事務局会議
- 4月 2日 寧夏の小学生に新華辞典寄贈プロジェク
ト実施
- 4月21日 第90回事務局会議
「南三陸保育所再建プロジェクト」に関
する上海宋慶齡基金会・宋慶齡基金会
JCC・南三陸町の3者協議書が正式調印
される
- 4月28日 井岡健副代表理事、井岡今日子理事が上

海宋慶齡基金会理事会に出席、南三陸
町保育所再建プロジェクトの進行状況
を報告、支援に謝意を表す

5月12日 第91回事務局会議

5月14日 川崎代表理事・木村監事、株式会社ベ
ネッセホールディングスを訪問：南三
陸町保育所再建プロジェクトに対する支
援に感謝

6月23日 「為了明天」No.22を発行



新華辞典を手に、寧夏の子どもたち

第21回 JCC中国講座

予告

習近平時代の中国を展望する
朱建榮氏 (東洋学園大学人文学部教授)

この秋に中国共産党第18回党大会が開かれ、習近平を総書記とする新指導部が誕生する見通しである。中国は今、政治、社会、経済の各方面とも転換期を迎えたが、今年に入って薄熙来事件が発生し、その内政と外交は一段と注目されている。習近平新体制のもとで中国はどう変化していくか、またそれが日中関係にどういう影響を及ぼすかを考えてみたい。

日時 2012年11月10日(土)
午後2時～

場所 未定

参加費 500円

[主催]

NPO法人 宋慶齡基金会

日中共同プロジェクト委員会



当会顧問の久保田文次氏が

『孫文・辛亥革命と日本人』

を上梓されました。

(汲古書院)

本書は辛亥革命百周年を記念して、久保田氏自身の約半世紀に及ぶ孫文研究の成果をまとめた著作です。

宋慶齡女史との日本での結婚や、ゆかりの日本人なども数多くとりあげられています。ぜひご一読ください。 定価：本体 20,000円＋税



「為了明天」No.22

2012年6月23日発行

編集：井岡健
題字：周肖

発行者：

NPO法人 宋慶齡基金会 日中共同プロジェクト委員会
代表理事 川崎高志

〒192-0904 東京都八王子市子安町1-43-6-206
TEL/FAX 042-646-4210

郵便振替：00170-2-152423

三菱東京UFJ銀行八王子支店 (普通) 4731623